



2016年APAA参加報告

1. APAAの概要

筆者はこの度 APAA (Asia Patent Attorneys Association) に初めて参加しましたので、その様子をお伝えします。

2016年 APAA の開催地はインドネシア・バリ島。参加者は過去最多の約1,500名。リゾート地での開催は人気が高いようです。アジア・オセアニアからの参加者が大多数を占めますが、欧米からの参加者や、24時間以上かけて何本ものフライトを乗り継いで来た南米からの参加者も。日本人が最多で約200人、インド人約160人、韓国人約140人と続きます。(なお、APAAでは中国からの参加は認められていません。)

土曜のOpening Ceremonyで開会し、火曜のFarewell Banquetまでの4日間。フライトにより到着日や出発日は様々で、早く帰ってしまう参加者もいます。

2. ミーティングの様子

APAAでは様々なテーマの委員会やワー

クシヨップが開催されていますが、多くの参加者は会場や公認ホテルで個別打合せをしています。1時間単位で予定を組む場合、午前3つ、午後4つ程度の打合せを入れることが可能で、中には昼食時に打合せを入れる人も。会期中に20以上の打合せを行うことも珍しくありません。

打合せの数を競うことに意味はありませんが、海外弁理士の知人や、仕事上の取引がある弁理士と効率的に情報交換できる意義は大きいと感じます。

面識がある人との待ち合わせはよいのですが、APAAで初めて顔を合わせる場合は注意が必要です。同じように顔を知らない人と待ち合わせをしている人が周りにはいますので、相手を見つけるのに苦労する場合も。事前にウェブサイトで相手の写真を確認したり、大きく名前を書いた紙を持参したりするなどの工夫が必要です。

何らかの事情で、待ち合わせ時間になっても相手が来ないこともあります。そんなときは、同じように近くで待っている人から声を



Opening Ceremony



個別打合せの様子



Farewell Banquet

掛けられ、待ち時間に自己紹介をすることも。また、会期中、会場と公認ホテルの間ではシャトルバスが運行され、隣に座った参加者と名刺交換しながら、10分程度の短い時間にお話することもあります。

公式イベントとしてほぼ毎晩開催されるレセプションには、1,000人以上が参加。互いの参加を知らなかった知人とぼったり顔を合わせることや、知人経由で別の代理人を紹介してもらうことも。

3. エクスカーション

3日目に行われるエクスカーションでは、火山や湖などの自然観光、寺院巡り、サイクリング、ヨガ、スパ、ゴルフコンペなど、多くのプログラムが準備されており、参加者は事前に登録した希望のプログラムに参加します。

全ミーティング終了後にエクスカーションが行われると、忙しい参加者はエクスカーションに参加せず帰国してしまいますが、会期中にエクスカーションが行われるAPAAでは参加率も高くなります。

同じバスで終日行動を共にすることによって、海外弁理士との親睦も深まります。

4. むすび

帰国後、出張中に溜まっていた仕事をこなしながら、APAAで打合せをした人へ御礼メールを送ります。1時間も話せば互いに十分理解できるので、打合せ打診メールを送るときに比べれば気軽に御礼メールを送っている自分に気付きます。海外弁理士との距離が縮まったと感じ、また来年も参加しようと感じる瞬間でもあります。

著者紹介

高橋明雄（たかはし・あきお）

グローバル・アイビー東京特許業務法人 代表弁理士
1979年埼玉県生まれ。2005年東京大学大学院理学系研究科物理学専攻修了。専門は物理。2005年弁理士試験合格。2010年米国パテントエージェント試験合格。企業知財部を経て特許事務所へ。2013年1月より現職。近年はインド、ASEANを中心とする海外現地代理人との連携に注力。

編集者紹介

木本 大介（きもと・だいすけ）

日本弁理士、グローバル・アイビー東京特許業務法人所属。1977年神奈川県生まれ。2003年上智大学大学院理工学研究科電気電子工学修了。専門は通信、エレクトロニクス及びコンピュータソフトウェア。2005年弁理士試験合格。企業（知財部）3年、特許事務所7年の経験を経て、2013年7月より現職。趣味はゴルフ。好きな言葉は「人生・仕事の結果＝考え方×熱意×能力」（稲盛和夫（2012）『生き方』より）。

<http://www.giplaw-tokyo.co.jp/jp/>